

経済学部3年 岸本大知

留学先:建陽大学(韓国)

留学期間:2023年2月~2024年1月

韓国長期留学を終えて

自分は韓国の建陽大学に長期留学をしました。
建陽大学の位置は朝鮮半島中西部よりやや南に位置する忠清南道の論山市という場所にあり、ソウルや釜山といった都会ではなく田舎にある大学ですが、大学周辺は栄えており平日は学生でどこも賑わっています。更にそんな田舎だからこそ学べることや、体験できることが沢山あったと思います。



この長期留学では韓国語の能力をはじめ、コミュニケーション力、行動力、理解力も大幅に成長したと思います。



自分が韓国留学を決めた理由は、韓国語を身に付けたいのと、高校生の頃から純粋に韓国の文化・トレンドに関心があり志願しました。また、K-POPと共に韓国の文化が日本に進出して、その人気は落ちる事なく継続して毎年ブームにもなる為、将来的にも韓国語の能力が役に立つかもしれないという理由もありました。



留学前、日本で韓国語の勉強をしていた時はとても簡単に思えたのですが、実際留学して韓国語を学んでいくにつれて難易度が徐々に上がっていくのを感じました。そこに留学をすることのメリットがありました。

日常生活を送りながら学んだばかりの文法・単語を使うことで自然に反復勉強にも繋がっていききました。この繰り返し学習で復習効率が上がって自分の語学能力も向上したのだと思います。

また自分は大学の部活に参加して他の留学生より特別な生活をしていたと思います。一学期にはダンス部とHIPHOP(ラップ)部に参加しました。

HIPHOP(ラップ)部では、自分は韓国語で歌う事ができない代わりに音楽をパソコンで作ることができるので音楽を作って提出し、部員の方が歌詞を作り発表する形で間接的に関わっていました。

ダンス部に入部してすぐ学園祭の準備が始まりました。もちろん会話は韓国語です。深夜練習や食事、合宿のほかにも部活内で行事があり、先輩後輩関係なく仲良くなって友達もたくさん出来ました。学園祭が終わった後、一緒に写真を撮ってくださいと話しかけてくれた学生が沢山いたので嬉しかったです。



更に学校のweb掲示板にも自分の事について励ましの言葉を書いて下さった投稿が多かったのでとても嬉しかったです。



二学期からはサッカー部にも入部しました。週に2回、学校内のグラウンドで行います。部員は30人ぐらいいて、運動不足だった自分にとっていい運動になったと思います。

留学中は韓国の学生はもちろん、幅広い国の方と一緒に過ごす事が多く、日本にいただけでは感じる事がなかった文化や考え方の違いを学ぶことが出来ました。また他の国の文化を理解しながら視野を広げお互いを高めあえる、毎日が刺激的な留学生活でした。

自分は部活にも参加して活動の場を広げながら部活の友達・先輩から韓国語を学びました。逆に自分が日本語の授業を履修している友達に教えてあげることもありました。また日本語の授業に出席して先生を手伝うこともありました。



このような些細な出来事やいろいろな出会いを通して、また語学堂から飛び出すことで、たくさんの学科の教授や韓国の学生にも自分を知ってもらえました。日本からの男性留学生は自分だけだったため心配事が多かったのですが、気づいたらいつでも相談にのってくれる友達も沢山出来ていました。

韓国の学生たちが、自分が日本へ帰る前にプレゼントや手紙をくれて嬉しかったです。
充実した留学生活を送れることが出来たと思います。



長期留学中、毎日の授業で韓国語を基礎から教えてくださった先生方、留学を日本から支えてくださった国際センターの先生方、そして一緒に思い出を作ってくれた友人、全てに感謝しています。

